輝く！万小の子

Ｎｏ．４　Ｈ３０．１０．１９　小中連携部

望ましい姿を目指して
ＰＢＩＳ

　万石浦小学校にある，このような巨大な掲示物をご覧になったことがある保護者の方も多いと思います。これは，ＰＢＩＳという取組の一環です。

　ＰＢＩＳとは，目指す姿を初めに示し，それができたことを認め，称賛することで，よい行動を増やし，望ましい姿に成長させていくというものです。

　万石浦小学校では，「**やさしく，かしこく，たくましく**」という３つの大きな目標の下，「掃除のときのやさしく，かしこく，たくましく」や「プールの学習でのやさしく，かしこく，たくましく」などのように，具体的な目指す姿を示しています。

　その中でも，昨年度から重点的に取り組んでいるのが，「**ろうか・階段でのやさしく，かしこく，たくましく**」です。

　この取組を続けてきたところ，右側を歩いたり，立ち止まってあいさつしたりする子どもが，確実に増えてきました。効果はじわじわと現れてきています。

　今後も，このような取組を通して，万石浦小学校の子どもたちを望ましい姿に成長させていきたいと思います。

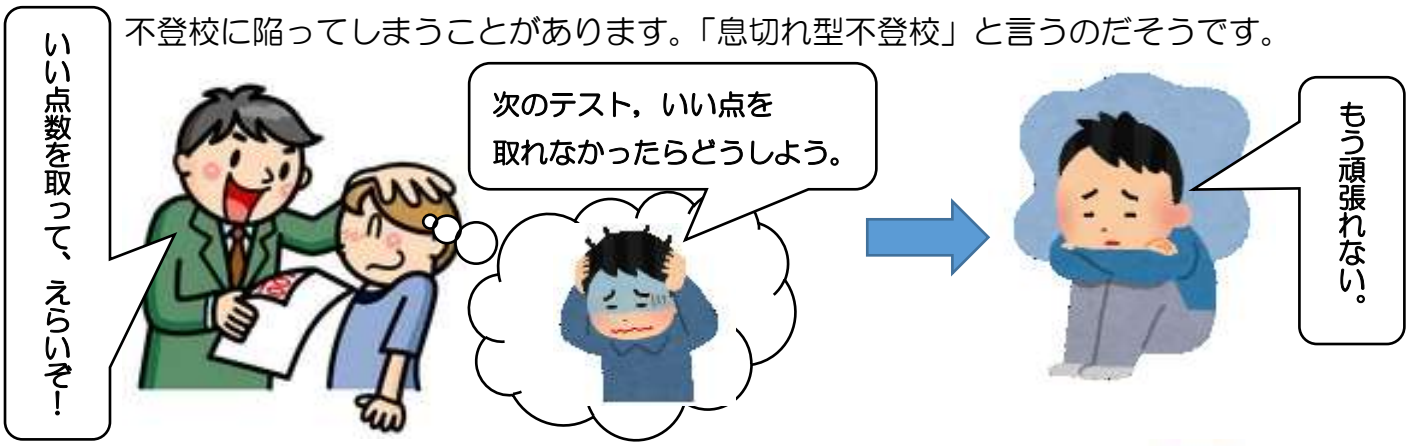
広島大学教授　栗原先生のお話から

褒めること，叱ること

○褒めること

大人は，子どもが何か良いことをしたときに子どもを褒めます。ＰＢＩＳでは，子どもが望ましい行動したときに褒めることで，その行動を増やそうとします。

しかし，いいことをしたときにだけ褒めるということを続けると，子どもは「いい子にしていないと認めてもらえない。」という，不安な気持ちを抱えることにもなります。そして，頑張り続けた子どもが，あるとき突然，「もう頑張れない」と息切れし，不登校に陥ってしまうことがあります。「息切れ型不登校」と言うのだそうです。



子どもが求めているものは，条件なしで，存在そのものを受け入れてくれることです。

「**いてくれるだけでうれしい。**」子どもへのそういう接し方が大事なのだそうです。

○叱ること

叱るときには，どうして叱られているか，それがはっきり伝わるようにして叱ることが大事です。そうでないと，子どもは自分の存在そのものを叱られている，自分の存在そのものを否定されている気持ちになるのだそうです。

○まとめ

子どもへのポジティブなかかわりは，無条件で。

子どもへのネガティブなかかわりは，理由をはっきり示して。